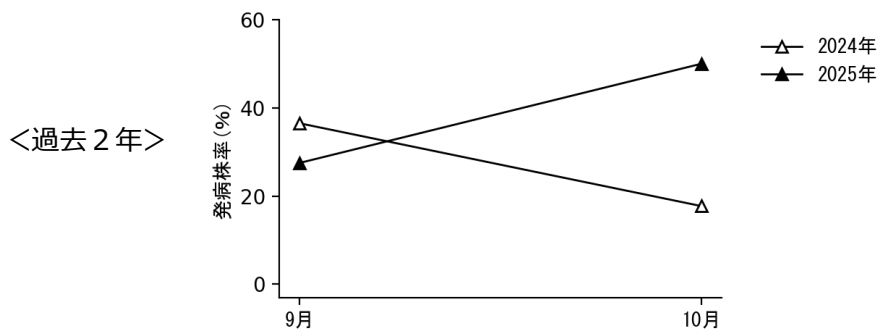
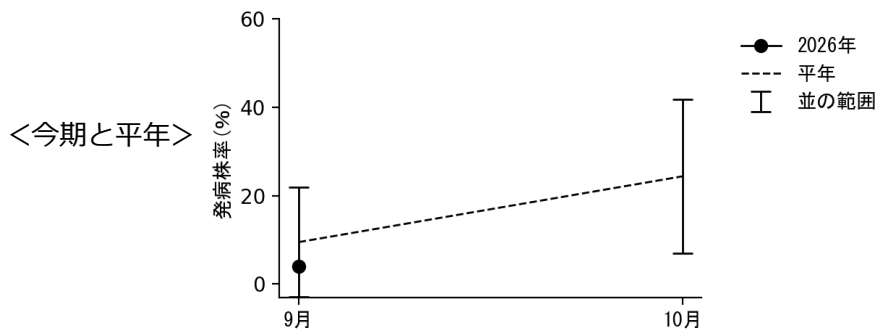


作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並		
予 報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病株率の推移



・発生ほ場率28.6%（平年：32.4%）

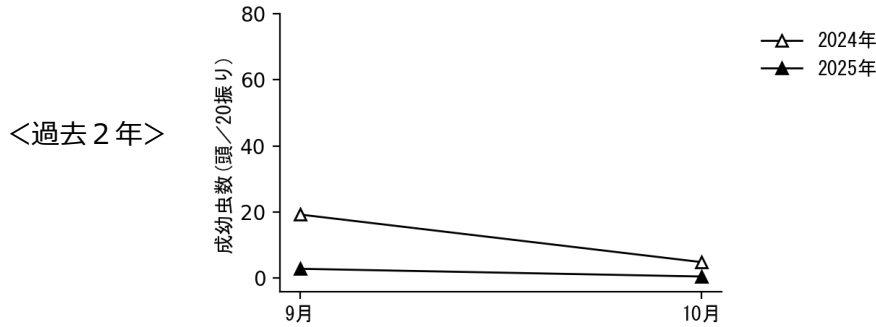
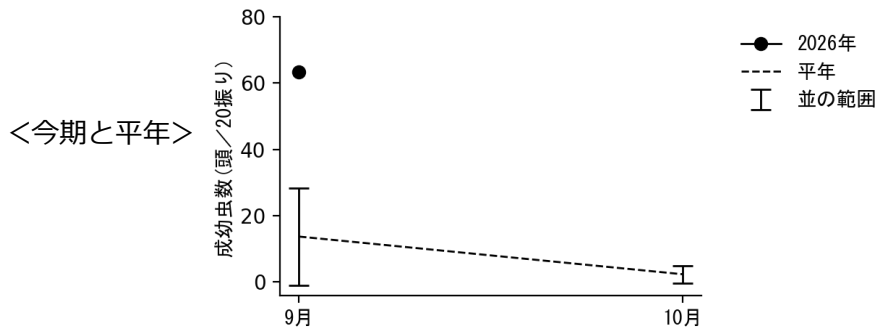
防除のポイント

- ・穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・発生の多い地域では、共同防除を行う。
- ・窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では次作の施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。

作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	② セジロウンカ			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	多		
予報	9 月からの増減傾向	↘		
	10 月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100%（平年：82.6%）

防除のポイント

・ウンカ類は主に株元に生息するため、本田防除を行う場合は、株元に十分に薬剤がかかるよう丁寧に散布する。



幼虫

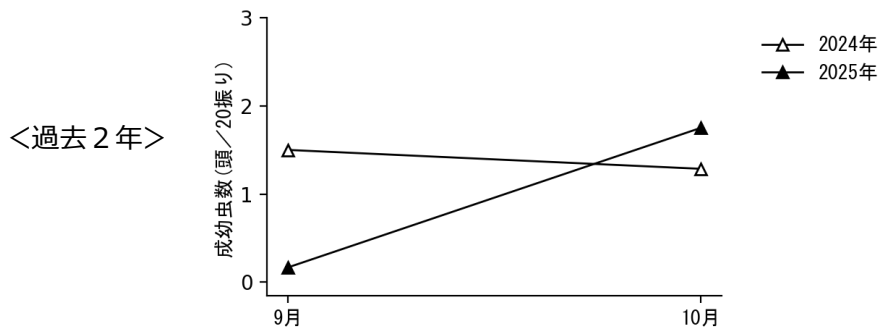
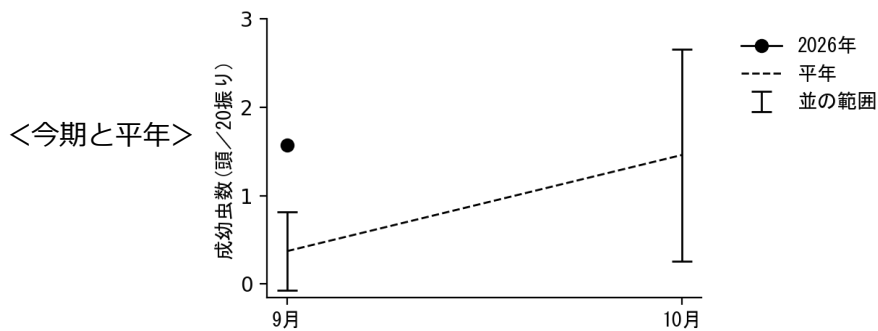


葉鞘の吸汁痕

作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	③ ツマグロヨコバイ		 ツマグロヨコバイ雌成虫	
調査結果	9月の発生量（平年比）	やや多		
予報	9月からの増減傾向	↗		
	10月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率14.3%（平年：21.2%）

※一部ほ場で多発

防除のポイント

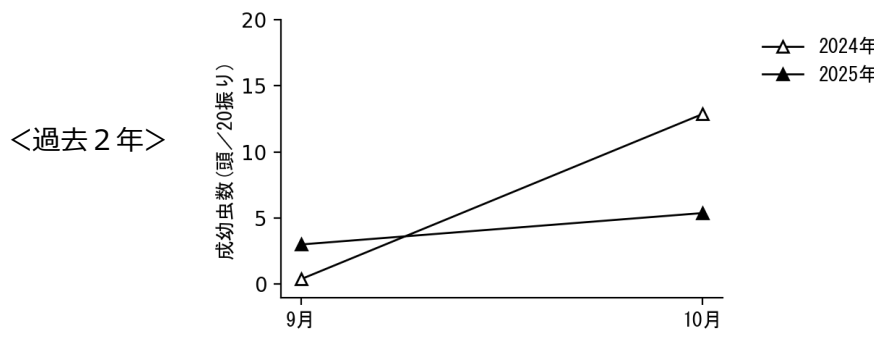
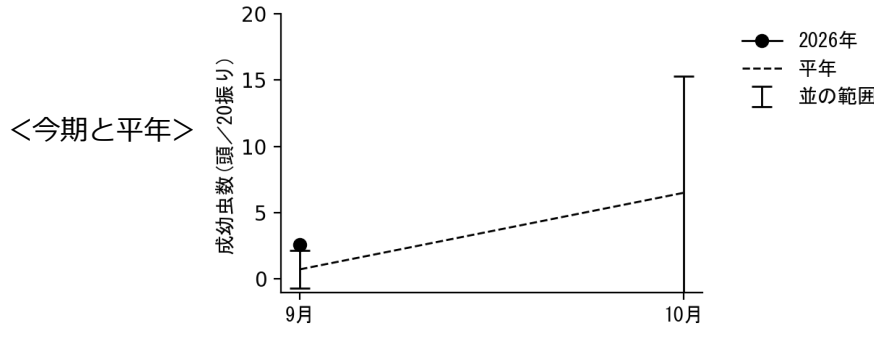
- ・ツマグロヨコバイ、クロスジツマグロヨコバイは広範囲のイネ科雑草に寄生するが、タイワンツマグロヨコバイはイネにのみ寄生する。3種ともイネ萎縮病、わい化病等の病原ウイルス、黄萎病の病原ファイトプラズマを媒介する。
- ・育苗時の初期防除と吸汁害対策としての本田防除を徹底する。
- ・水田周辺の雑草防除を行い発生源を少なくする。



作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	④ 斑点米カメムシ類			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種 クモヘリカメムシ類、アカカメムシ、ホソハリカメムシ
- ・発生ほ場率42.9%（平年：24.2%）

防除のポイント

- ・畔や水田周辺の雑草から出穂後に水田内に移動するため、出穂期までの定期的な除草により初期密度を低減する。
- ・出穂期前後の除草はカメムシ類が水田に移動するので極力控える。
- ・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施を基本とする。



アカカメムシ



ホソハリカメムシ

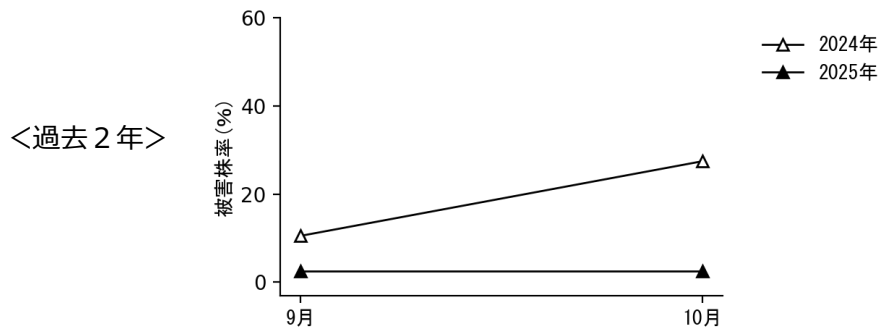
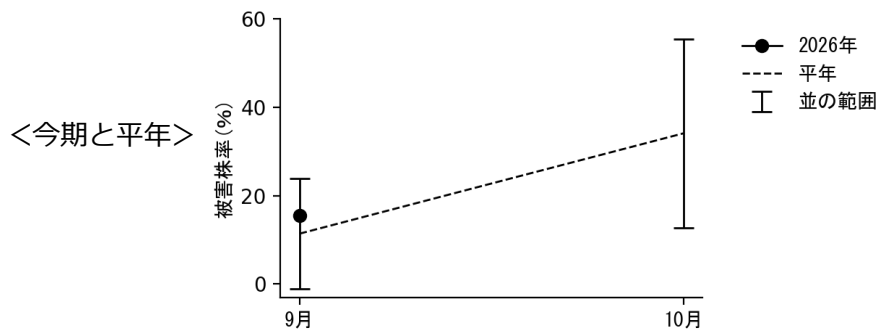


斑点米

作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	⑤ コブノメイガ			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

被害株率の推移



・発生ほ場率71.4%（平年：36.0%）

防除のポイント

- ・老齢幼虫は薬剤の効果が劣るため、成虫発生期に薬剤を散布する。
- ・幼虫と成虫が混在する場合は、粒剤と液剤を併用して防除する。

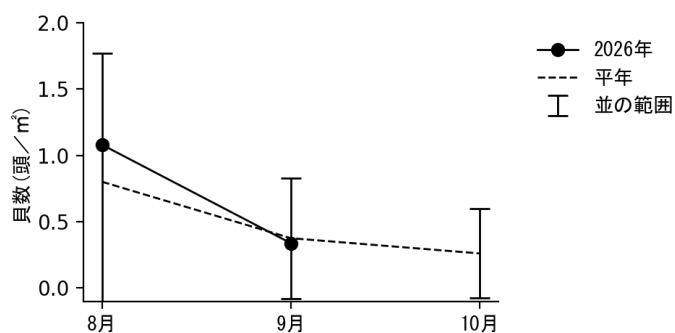


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	⑥ スクミリンゴガイ		
調査結果	9 月の発生量（平年比） 並		
予報	9 月からの増減傾向 ↓		
	10 月の発生量（平年比） 並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

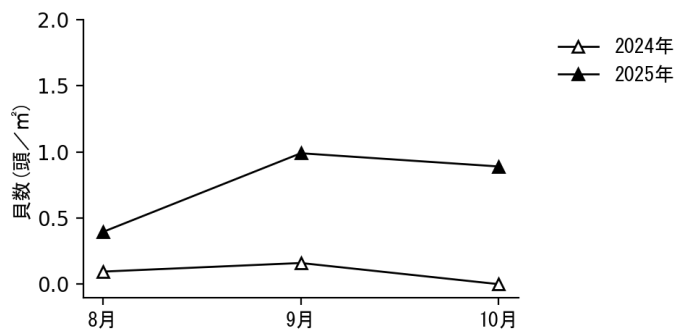
調査結果

貝数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率85.7%（平年：53.7%）

防除のポイント

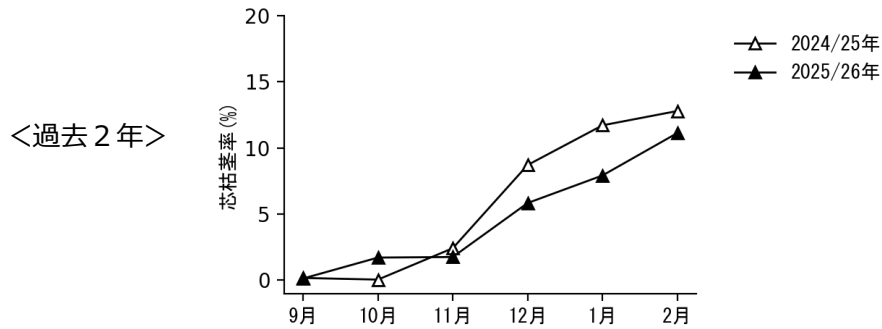
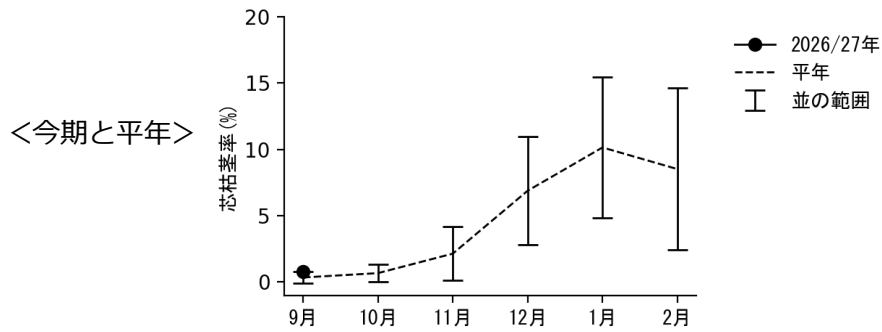
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。



作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチユウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並		
予 報	9 月からの増減傾向	→		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

芯枯茎率の推移(夏植え)



・発生ほ場率54.5%（平年：32.1%）

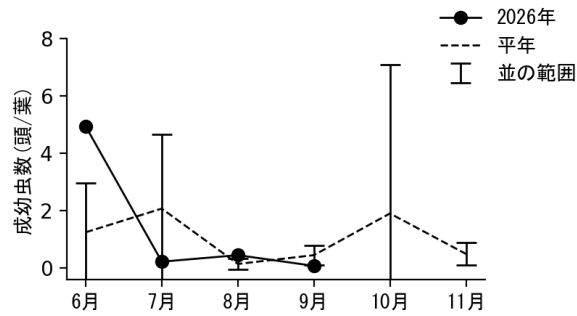
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

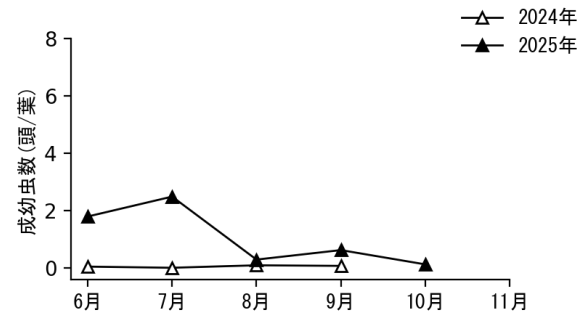
作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや少		
予 報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

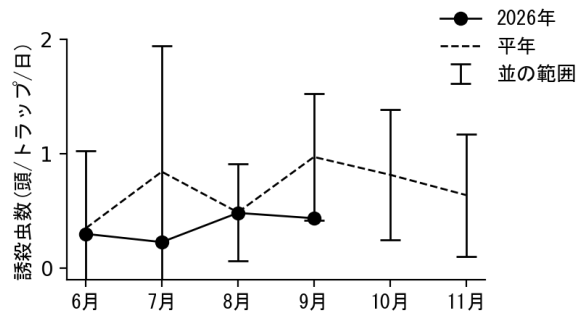
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



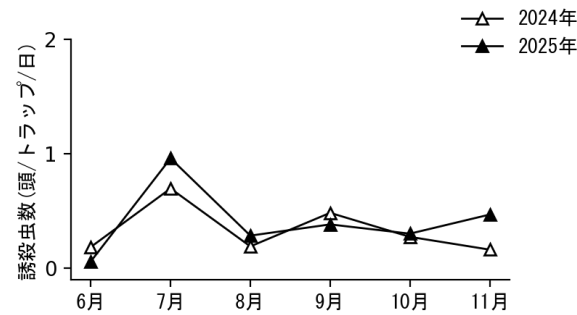
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率80.0%（平年：65.8%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

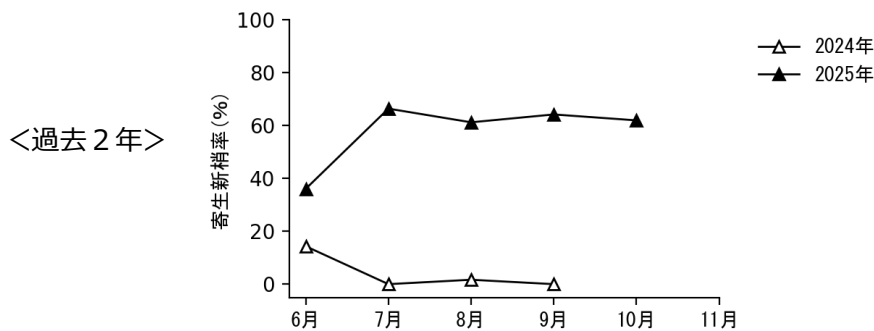
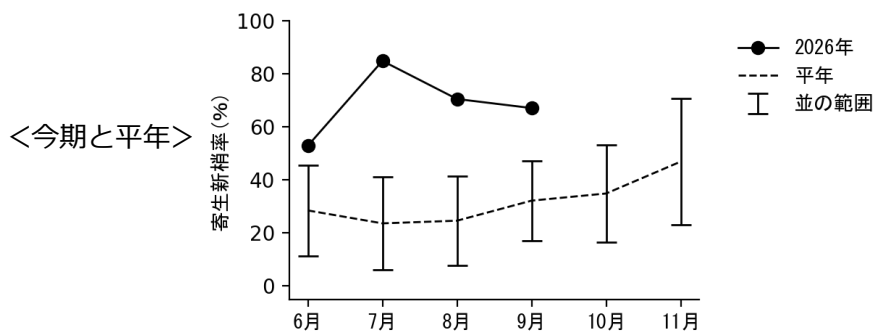


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	9 月からの増減傾向	→		
	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率100%（平年：79.3%）

防除のポイント

・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等にも感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。

・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。



幼虫



新葉の虫こぶ

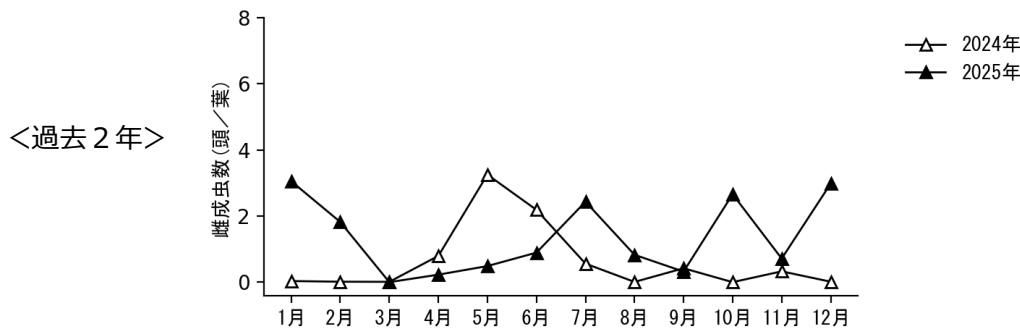
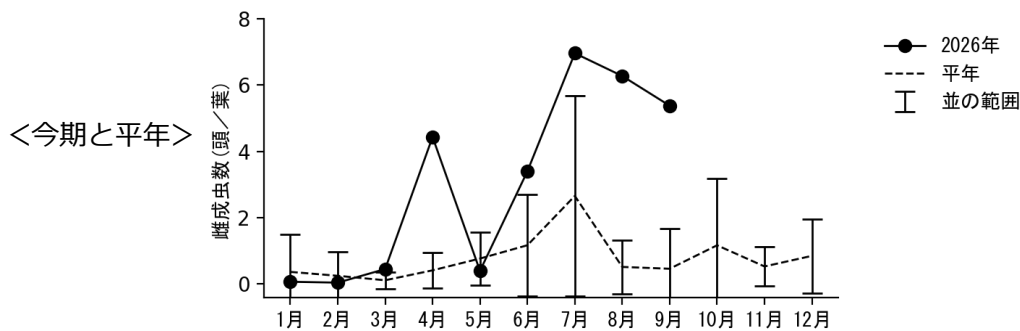


被害葉

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	多		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：マンゴーツメハダニ（85%）、シュレイツメハダニ（15%）
- ・発生施設率60.0%（平年：32.0%） ※一部施設で多発

防除のポイント

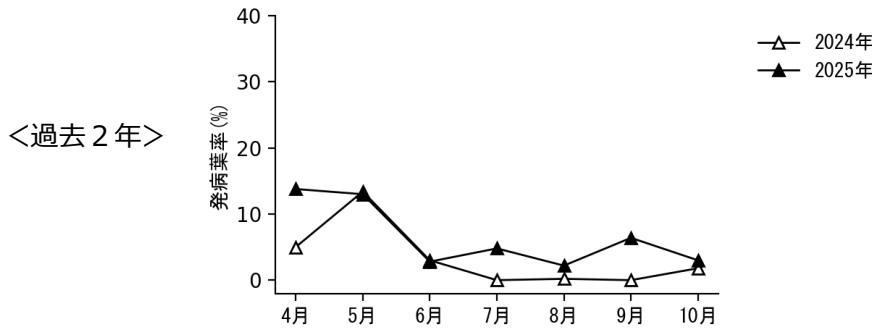
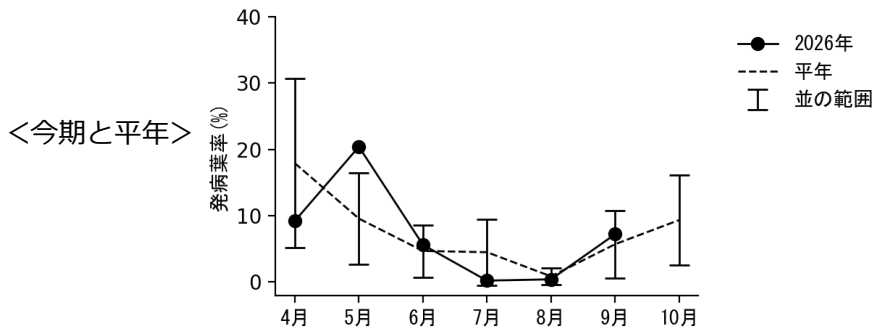
- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並		
予 報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率100%（平年：48.0%）

防除のポイント

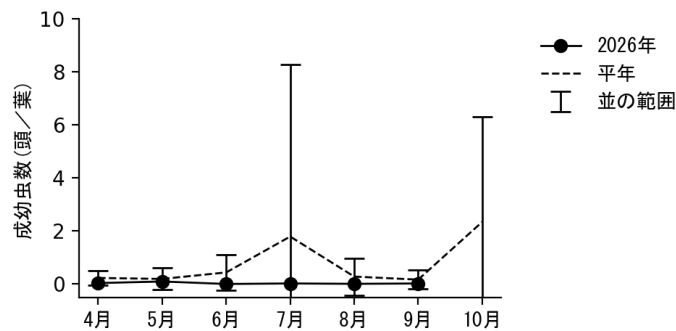
- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	② アブラムシ類			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

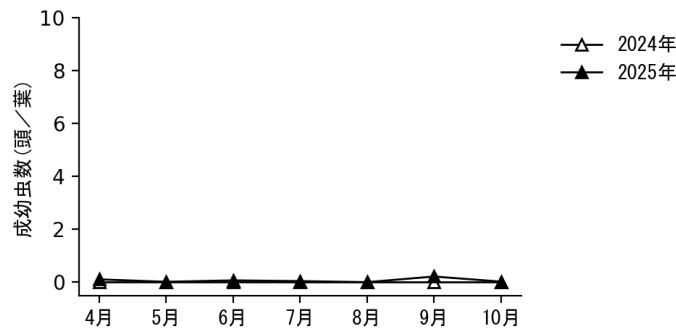
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率40.0%（平年：22.0%）

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



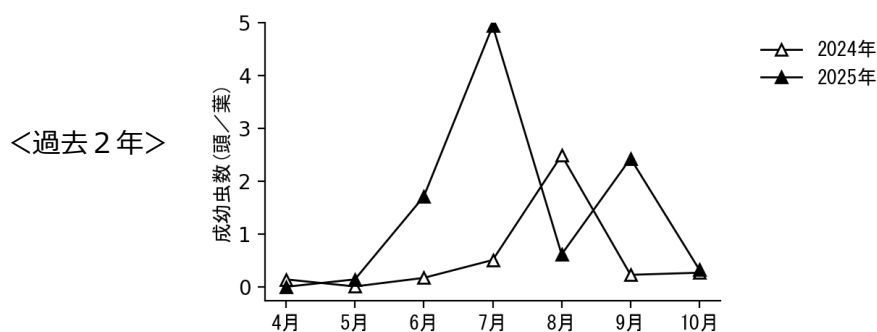
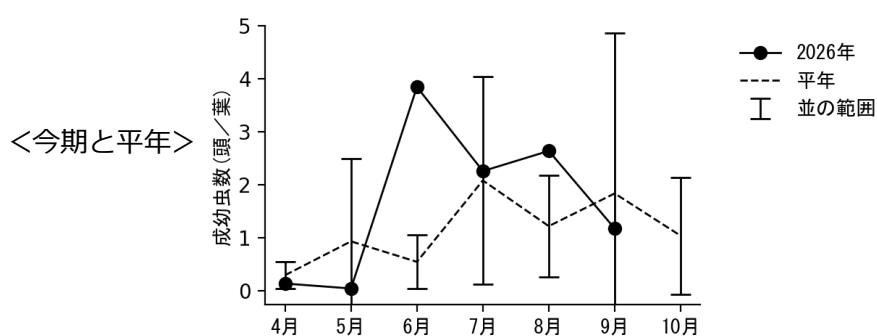
花蕾に群生する成幼虫

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	



調査結果

成幼虫数の推移

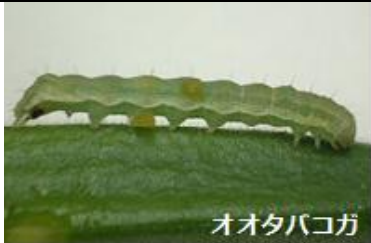


・発生ほ場率80.0%（平年：88.0%）

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

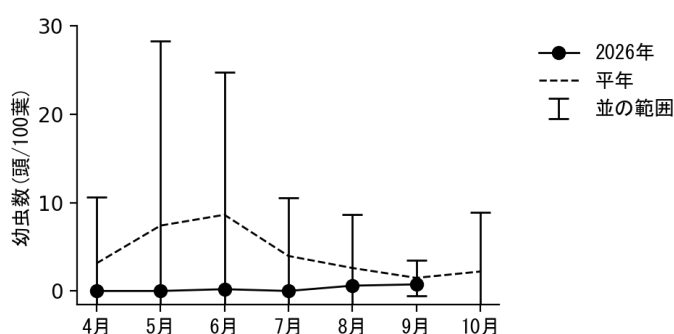


作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並		
予報	9 月からの増減傾向	↘		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

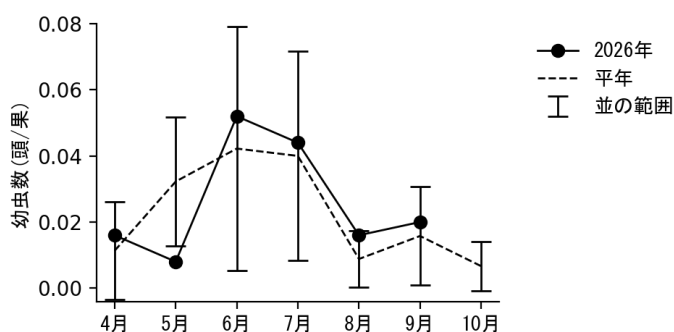
調査結果

幼虫数の推移

<葉>



<果実>



- ・発生種 果実：オオタバコガ、クサオビリング
葉：フタトガリコヤガ、ワタノメイガ、ワタアカキリバ
- ・発生ほ場率 果実：60.0%（平年：35.6%）、葉：40.0%（平年：24.0%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。また同系統薬剤の連用を避ける。
- ・オオタバコガは齢期が進むほど薬剤の効果が低下し、かつ中齢幼虫以降は蕾や果実内に潜行するためできるだけ食入前の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。



フタトガリコヤガ



ワタアカキリバ



ワタノメイガ



クサオビリング



タイワンキドクガ



ハスモンヨトウ